



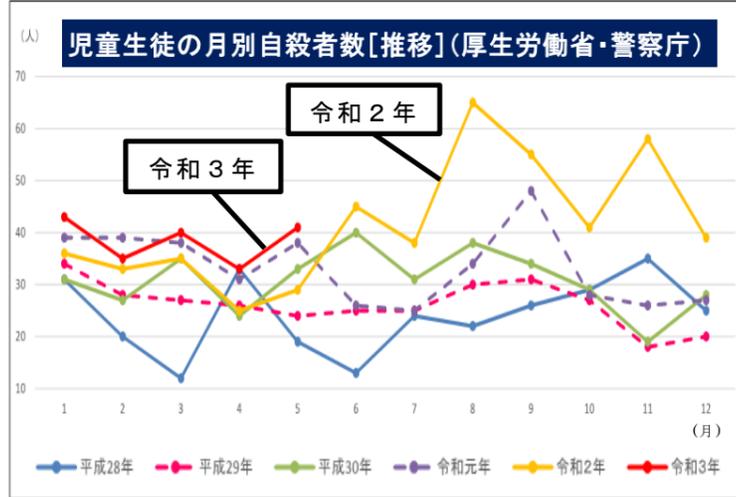
# 竹林の風

## シリーズ「自殺予防について」～① SOSを出しやすくするために学校としてできること～

### ◆はじめに◆

右のグラフのように、令和2年の6月以降、全国の児童生徒の自殺者数が高止まり傾向にあります。令和3年に入っても、その傾向は続いており、とりわけ、夏休み明けを視野に入れた事前の対応について考える必要があります。

河内教育事務所では、第40号で自殺予防についての特集を組み、その啓発に努めて参りましたが、令和3年の状況についても緊急事態であると捉え、「自殺予防について」と題し、今後、シリーズ化して取組の推進を図りたいと考えております。その①では、早期発見に向けた取組として、「SOSを出しやすくするために学校としてできること」を提案いたします。



### ◆SOSを出す力が大切◆

子どもは、大きな悩みを抱え込んでしまった場合、問題行動等や不登校、身体症状、自殺未遂など様々な形でストレス反応を示します。このような状況に至る前に、まずは、子ども自身が信頼できる大人や友人に相談するなど、他者の力を借りながら悩み等を解決していくことは、生きる上でとても大切なことです。解決することが困難な悩みやストレスを抱えたとき、誰かに相談し助けを求める(SOSを出す)力は、しなやかにたくましく生きていく力であり、子どもたちにも積極的に身に付けさせていくべき力であると言えます。

### SOSを出しづらい背景は……

- ・日本特有の、我慢や弱音を吐かないことを美德とする風潮
- ・更に悪化することや馬鹿にされることへのおそれ
- ・親や先生を困らせたくないという思い
- ・相談しにくい雰囲気
- ・相談しやすい大人や友達がいない
- ・助けてもらえなかった経験や聞いてもらえなかった経験 等

### SOSを出すことで期待できる効果

- ・口に出すことで心が楽になる。
- ・見通しがもて、不安が軽減する。
- ・多角的な視点が加わり、課題解決に向かいやすくなる。
- ・自己開示となり、信頼関係の構築につながる。
- ・自己理解につながる。
- ・自分だけのせいではないことを知る。
- ・SOSを出しやすい雰囲気が作られる。 等

### ◆SOSを出しやすくするために学校としてできることは？◆

子どもたちが誰かに相談して助けを求める(SOSを出す)には、大きな勇気が必要です。

そこで、学校は、子どもたちにSOSを出すことは、たくましく生きていく上で大切な力であるということを伝えていく必要があります。また、子どもたちが感じている「SOSを出すことへの抵抗」を軽減できるよう努める必要があります。その取組例を紹介するので参考にいただければと思います。

- ・SOSの出し方やゲートキーパーに関する教育を行うこと。
- ・どんな悩みも、全力で受け止めること。
- ・子どもの言動の背景にあるSOSを感じ取ること。
- ・子どもが主体となる活動の機会を増やすこと。
- ・日頃から、結果や数字ではなく、取り組む過程や姿勢に価値付けを行うような言葉がけする。
- ・教師たちが、助け合うことを率先垂範すること。
- ・問題解決に向け教師も一緒に考えるようにすること。
- ・価値の押し付けなどによる、理由なき「～するべき」「～であるべき」という雰囲気をなくすこと。
- ・教師が日頃から安定した穏やかな姿勢でいること。 等

## 高等学校・特別支援学校との連携を新たに始めました！

今年度新たに、高等学校、及び特別支援学校との連携を始めました。活動実態等を把握するため、県立学校の地域連携教員を対象に、「高等学校・特別支援学校における学校と地域の連携活動に関する実態調査」を実施しました。調査結果から、管内の各学校が、様々な関係機関等と連携を図っているとともに、校種や地域の特色に応じた活動に取り組んでいることが明らかとなりました。また、コロナ禍における連携・協働活動の在り方や教職員の異動による引継、地域連携教員間の情報交換等に課題があることが分かりました。こうしたことから、上三川高等学校、及び盲学校との連携を開始し、順次、連携する学校を増やしていく予定です。



ふれあい学習課は、これまで培ったノウハウを活用し、より効果的な学校と地域の連携・協働活動の実現に向けた具体策等について一緒に考えます。地域連携教員の皆様、お困りの時は、遠慮なく、ふれあい学習課に御連絡ください。

## 常に前向きであれ ～初任者・新採養護教諭研修(学習指導)～

6月29日(火)、県総合教育センターの各研修室を会場に、河内地区初任者・新採養護教諭研修(学習指導)を実施しました。今回の目的は、初任者・新採者の専門性を高め資質向上を図ることと、相互交流を図ることです。



そこで現在の状況を鑑みながら河内地区の独自性を生かした研修を行いたいと考え、宇都宮大学共同教育学部附属小中学校公開研究発表会の授業を視聴し、グループ協議するという新たな試みで実施しました。研修に当たって御協力いただきました、宇大附属小中学校の池田聖校長先生をはじめ、教職員の皆様に深く感謝いたします。最高の研修教材をありがとうございました。

研修中は授業映像を熱心に見つめ、メモを取りながら視聴している初任者の真剣な姿が印象的でした。また、グループ協議では、授業分析の視点の違いに刺激を受けたり、各学校での取組を情報交換したりと、一人では学べない多くのことも研修できたようです。



研修の振り返りからは、「構造的な板書」「発言に対応する教師の引き出しの多さは大切」「つぶやきや発言から広げる・深める技術」「教師は授業のコーディネーターである」「準備の大切さを改めて実感した」「最高のタイミングで言葉をかけることで、生徒の考えはより深まる」など、記述内容自体に初任者の皆さんの力量を感じました。各学校にて指導教員の御指導の下、研究修養を重ね、日々努力を続けていることが伝わってきました。その情熱は、頼もしい限りです。

それから、初めての環境、初めての業務に取り組む中で、先の見通しが立てづらく、誰でも不安になるという、同じ悩みを共有されていました。そして、このような状況においても、多くの先生方が、先輩に相談して指導いただきながら、奮闘努力している様子が分かりました。皆さんが、前向きであることが伝わり、今後たくましく成長していく姿が想像できました。また、養護教諭の皆さんは、今後、管理職者に対するリーダーシップを求められる場合も出てくると思います。そのような時は、一人で悩まず経験豊富な先輩方に、遠慮せず相談することを心がけてほしいと思います。



最後に、無理をすることが当たり前にならないよう、心身共にリフレッシュする時間も確保して、上手くバランスをとりながら過ごしてほしいと思います。……とは言え、ふと気付くと、道端で、ホームセンターで、テレビ等で、「これは教材になる」と考えてしまう日常になっているものなのですよね……。常に前向きであれ。

教職員一人一人の誇りと品格は 教育への信頼を確たるものにする